



「大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部」 の設置・運営について

2014年9月9日

立命館大学

立命館大学と大連理工大学の共同運営による IT系学部の設置

中国語名称:

大連理工大学—立命館大学国際信息与軟件学院

日本語名称:

大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部

英語名称:

DUT-RU International School of Information Science
and Engineering

設置形態

- 設置場所： 中国大連市
- 学生定員： 100名（4年制、初期）
- 学位：
 - － 定員100名の内4割の40名は、立命館大学に3年次転入し、立命館大学と大連理工大学のダブルディグリーを取得（DUDP）
 - － 残りの学生は、大連理工大学の学位を取得
- 設置申請： 中国教育部へ2012年4月
- 設置認可： 2013年3月
- 開講時期： 2014年9月

大連理工大学について

設立:1949年

所在地:中華人民共和国・遼寧省大連市

学生数:34,530名(博士課程3,725名、修士課程9,567名、学部生20,685名、予科72名、外国人留学生481名)

特徴:中国の教育部(文科省)直轄の国立大学。中国政府が重点整備する100大学計画「211工程」、および、世界一流の大学や国際的に知名度の高い研究型大学を重点整備する計画「985工程」の対象大学。理工系学部が特に評判が高く、中国ではトップ10に入ると言われる。2013Times Higher Educationのアジア地域の大学ランキングは総合80位。



設置に至る経緯(概要)その1

・2008年3月

立命館大学の代表団が大連理工大学を訪問し、IT人材の育成に関して両大学が協力していくことに合意

・2008年9月

第1回共同ワークショップという形での大学間の研究交流を開始。その後、毎年、交代で両大学で開催(これまでに6回開催)

・2009年10月

大連理工大学ソフトウェア学院羅学院長他の関係者が情報理工学部を訪問し構想説明

・2010年3月

大連理工大学欧学長一行が本学を訪問し、川口総長に構想説明

・2010年9月

大連で実施された情報理工学部と大連理工学部との第3回共同ワークショップにて、協力要請有り

設置に至る経緯(概要)その2

・2010年10月

本学より大連理工大学に書状にて関心表明を示し、本格的な協議が始まる

・2011年9月

大連理工大学より中国教育部に設置申請書を提出

・2012年4月

大連理工大学より中国教育部に設置申請書の修正版を提出

・2012年12月

大連理工大学において、中国教育部の専門家による設置審査会が開催される

・2013年3月

認可

・2014年9月

開講

大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部
の基本コンセプト

アジアに立脚したIT国際教育スタンダードの確立

IT分野におけるグローバル人材育成のための
教育モデルの開発

中国東北部をはじめとする東アジア地域での
教育研究拠点の形成

日系企業・中国企業と
立命館大学・大連理工大学による国際産学連携

大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部 の特色

日中共同で設置する初の国際的な学部

立命館大学情報理工学部と大連理工大学軟件学院が
共同で、大連理工大学の開発区キャンパスに設置

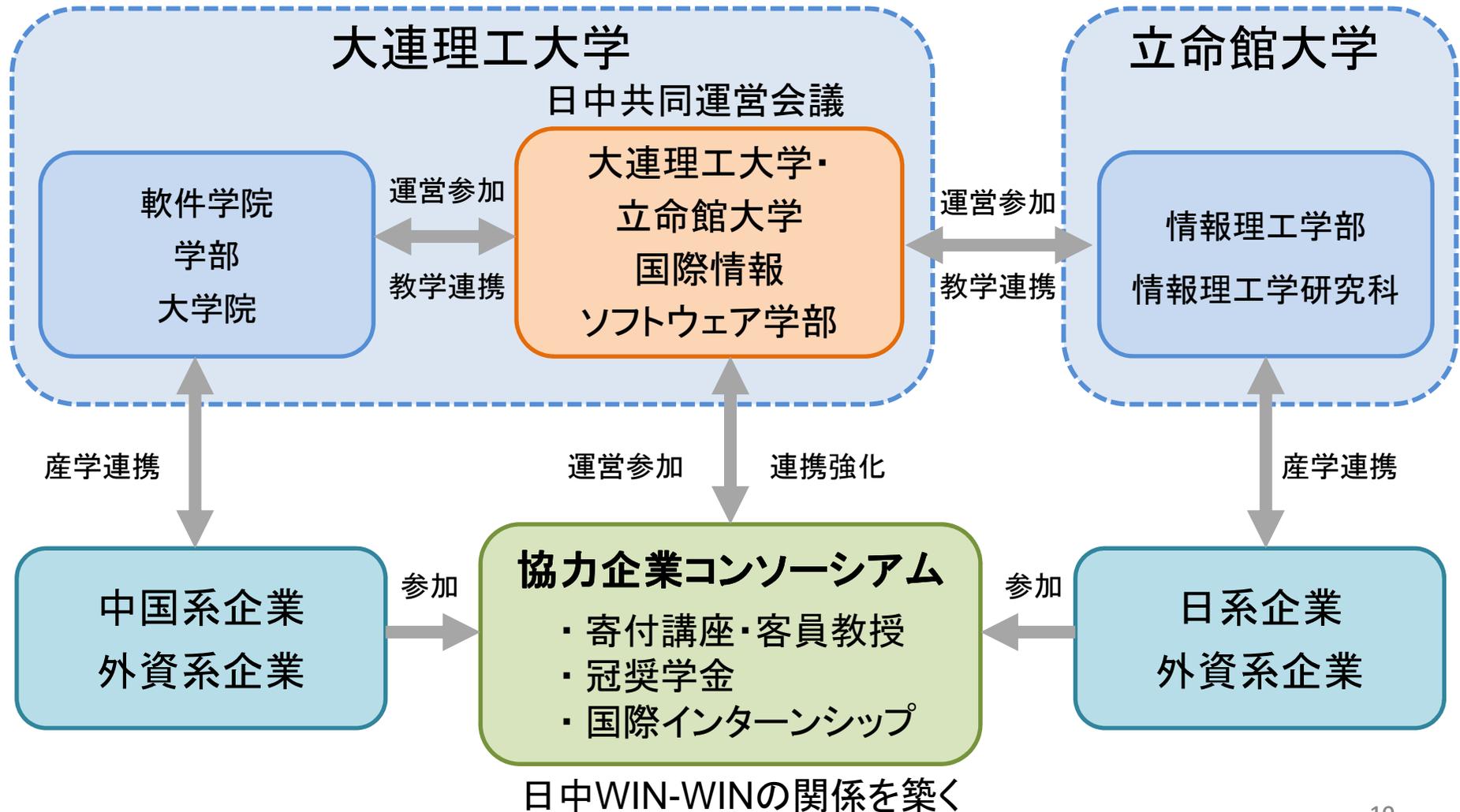
大連理工 2/3 立命館 1/3

日本語教育：日本語能力試験N1レベルを目指す
専門科目：立命館大学教員が24科目を日本語で講義

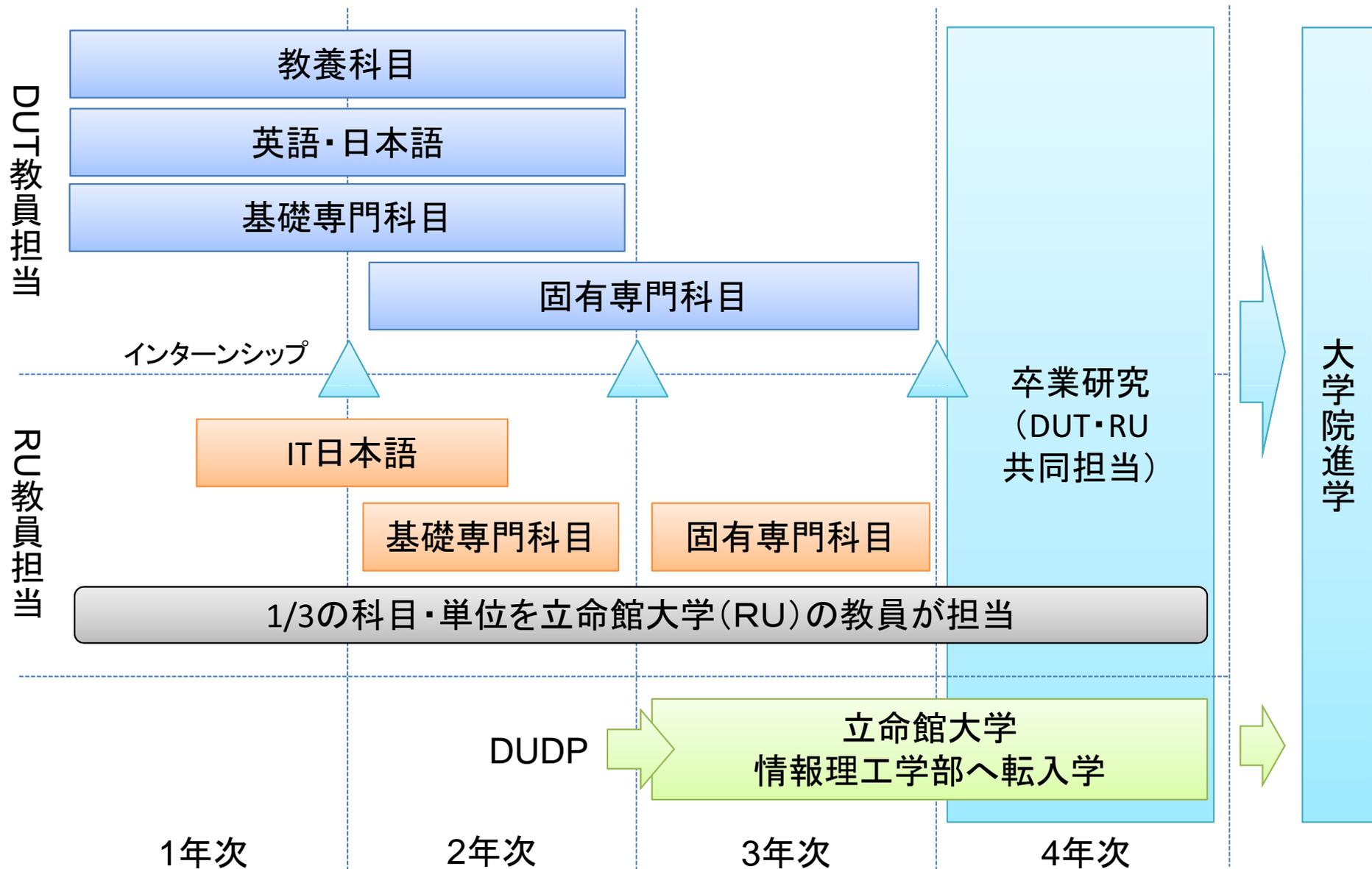
大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部
における
人材育成目標と設置の意義

- 学生の相互派遣による国際化教育の展開
 - 学生の受け入れ： 安定的に優秀な留学生を確保するための新しい戦略的取り組みとしての位置付け
 - 学生の送り出し： 本学の学生・院生が海外で本格的な教育を受ける可能性の追求
 - 参加学生のメリット： グローバル人材に求められる能力の理解、モチベーションの向上、国際経験、異文化理解・交流
- 教育・研究の高度化と国際展開
 - 国際産学連携の基地化： 共同研究への寄与
 - 高等教育の国際展開： 日本の大学として海外で学部・大学院教育を本格的に展開するパイロットモデル

大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部の 国際産学連携による運営スキーム



大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部のカリキュラムの概略



2014年9月入学の新入生の状況

- 入学者数： 100名
 - 男性73名、女性27名
- 出身地域：
 - 直轄市： 北京、天津、重慶
 - 省： 山西、遼寧、吉林、黒竜江、安徽、山東、河南
- 合格基準：
 - 新入生の合格最低点は、各地域の合格ラインよりも10点～30点高くなっている

2014年9月入学新生オリエンテーションの様子



大連理工大学ソフトウェア学部における パイロットコースの状況

- 2012年9月に開講
- パイロットコースには、30名の中国人学生が所属
- 日本語、英語、数学、物理、C言語・プログラミング、ソフトウェア工学などを履修
- 2014年9月に15名が立命館大学に転籍



数学の授業風景



日本語リスニングの授業風景

日本におけるグローバルIT人材育成 の背景

- 日本企業の海外拠点はもちろん、国内拠点においてもグローバル人材の採用が促進
- 組込み系、エンタープライズ系のグローバルIT人材の需要が増大
- グローバルIT人材の能力の明確化と、育成・評価の具体化への要求
- 中国、インド、タイ、ベトナムなど東アジア地域における大学と、日本の大学との間での人材育成の規模のギャップが拡大

立命館大学における共同学部設立の メリット

- アジアの大学と共同して新しいものを作り出すという
経験
→大学の国際化
- 立命館大学に優秀な留学生を大規模かつ安定的に
迎え入れることができる
→キャンパスの国際化
- 日本の高等教育における初の本格的な海外展開
→日本の高等教育の国際的評価の向上

グローバルマインドを持った高度IT人材育成 のための教育環境の構築へ向けて

- 立命館大学情報理工学部と海外大学との交流実績
 - ハノイ工科大学
 - 大連理工大学
 - 東北大学(瀋陽)
 - 泰日工業大学
 - シンビオシス(インド)
 - TUSUR (ロシア)
- アジア人財資金構想プログラム
 - 短期留学受入プログラム
 - 海外IT研修プログラム
 - 学部・大学院相互派遣プログラム
 - 教育・研究共同ワークショップ



- 次世代を担う若者が、自らのモチベーションに基づき、学びの環境を構築できるシステムを東アジア地域の大学・企業との産学協同で推進